

SHIEN アカデミー Press

Vol.18 SHIEN学が提案する未来

INDEX

- ・ 代表理事からのメッセージ～誰一人置き去りにしないという原則～
- ・ SHIEN学アドバイザー 庄崎 賢剛(SHIEN学アドバイザー)P2～P3
- ・ SHIENアカデミー活動報告 SHIEN合宿(和歌山) 伊藤 めぐ(SHIEN学マスター)P4
- ・ 今後の予定<3つのコースとセミナー>P5
- ・ SHIEN学と私 これまで と これから 野澤 栄一 (SHIEN学アドバイザー)P6～P11
- ・ 編集後記

誰一人置き去りにしないという原則

SHIENアカデミー代表理事 たておか やすを

SHIEN学の一つの原則です。多面的な意味を有していますので、3つくらいの視点から触れてみたいと想います。

一つ目は、会議の場面です。会社の会議でも大学の会議でも、リザルトパラダイムの会議では、執行部が通したい案を作り、場合によっては、根回しをしたり、稟議をしたりして、本ちゃんの会議は、それを（場合によっては、どうしても）通すためのセレモニーに化しているのではないかでしょうか。日本の会議の典型です。このような会議が年中続くと、自分が何かを変えられるという意識は消え去り、民主主義さえ実現されません。多くの人々の意見や気持ちは結果として置き去りにされてしまいます。実は、詳細はここでは述べませんが、SHIEN学は、民主主義の先を行くものと考えています。プロセスパラダイムミーティングというあり方があって、そこでは、全員がその場でアジェンダを決定して、全ての項目が満たされて会議が終了します。ですので、誰一人置いてきぼりにならないのです。

二つ目は、“人の輝き”についてです。現在の社会はオリンピックにしても、芸能にしても、学問にしても、特定の天分だけが強調されすぎているのではないかでしょうか。SHIEN学では、金メダルが銀メダルよりもよいか、銅メダルよりもよいかは考えません。特定の人だけが天分を発揮して輝いて、後の人方がそれを賞賛したり、ついて行くあり方は、SHIEN学は好みません。これでは人の天分引きずら

れて、自分の天分を忘れてしまいます。天分は、75億人いれば、75億通りの天分があるとSHIEN学はしています。だから、誰もがその天分を発揮すれば、誰一人置いてきぼりにならないのです。

三つ目は、“温かさ”についてです。競争にあけくれていると、負けたひとを弱者として扱い、冷たい関係、冷たい心がどんどん成長していきます。そして、他人事になっていくのです。SHIEN学は、“温かさの創造”を寄り添い合いながら、一緒に生み出しています。温かな心や場が増えていくと、他人事が自分事になって、置いてきぼりになる人がどんどん減っていきます。

つまり、SHIEN学は誰一人置き去りにしない科学だということです。この素敵な21世紀の科学をご一緒にもっともっと深めていきませんか。



Photographed by Yasuwo TATEOKA

SHIEN学アドバイザー



庄崎 賢剛 (SHIEN学アドバイザー)

はじめまして、長崎県在住の庄崎賢剛と申します。理学療法士として医療・介護・教育現場で今まで働いてきました。理学療法士という仕事は患者さんあっての仕事です。その中で私自身が仕事の中でより意識してきたことは、

- ① 患者さんの痛みを分かち合うこと
- ② 患者さんに寄り添った関わりをすること
- ③ 相手との間を意識し関わること

でした。今、振り返ってみると上記の①～③のこと



とは、まさにSHIENであったと思いますし、自分自身の意識をしないところで無意識のうちにSHIENを実践していたのだと思っています。

SHIEN学との出会い

SHIENとの出会いは、現在、SHIENアドバイザーとして活躍されている高木和歌さんが紹介されていて、何となく気になって、SHIEN相談会に参加したのが始まりです。最初は何かなどと思って参加したのですが、その相談会の不思議な雰囲気や場の温かさに魅了されたのが一番の印象的な出来事でした。それから実際にSHIENの本質を知るために札幌のCafe toneに行き、実際にSHIEN学を学ばれている仲間に出会い、自分自身の在り方、場や重なりの重要性に気づくことができました。

自己の中の変化

その後、日々の日常の中でSHIEN学を実践しつつ、相談会等も継続的に実施し、SHIENの本質、温かさを伝えてきました。しかし、繰り返し、継続していく中で自分の内側にあるものと向かい合わないといけない時期が来ました。その時期は正直、今、考え

▼次ページへつづく

▼前ページよりつづく

ると非常に苦しい状況ではあったのですが、ある意味自分自身におけるパラダイムシフトであり、新しい自分へ成長していくために必要な時期だったのかかもしれません。

この時期をうまく乗り越えられたのはSHIEN相談会で頂いた多くの仲間からのメッセージや激励があったからです。日常でもらうことができない一つ一つのメッセージには非常に温かく、自分自身の背中を押してくれる大きな力があると思っています。そこから、「SHIENの仲間とこの学問を深めていきたい」、「SHIENの先にある世界を見てみたい」と思うようになりました。

最近の気づき

SHIEN学に触れていると本当に不思議な体験をします。場や間をより意識することで、なんとなく感覚が研ぎ澄まされてきているようです。

例えば、日々起こっている事象には非常に意味があって、過去の出来事が未来の出来事につながっていたり、未来の出来事が過去の出来事と関連したりすることができます。そのため、以前ではその場で起こりうる出来事で一喜一憂したりすることが多く、特にネガティブな出来事は引きずっていることが少なくありませんでした。

しかし、SHIENをより意識することで、その場で起こった出来事は過去の事象があったから結果的に未来で起こったものや未来で起こったことは過去のこういう経験があったからこそ得たものだと思うようになりました。

事象を点として捉えるのではなく、事象を前後の関係性として線として無意識のうちに捉えるようになっていました。これは館岡先生がおっしゃっている『関係性の科学』、『間の科学』なのだと実感しています。

まだまだ不明確ではありますが、この感覚を大事にしてよりSHIEN学を皆さんと共に深めていきたいと思います。

これから私のSHIEN学

現在は、日々の日常のなかで、どの要素が相手と重なりが持てているのか、日常で起こっている出来事はどのようなかかわりを行うことで、よりSHIEN的なかかわりができるのかを現在意識しながら、実践しています。このような自分自身の意識変容はまさにパラダイムシフトであり、このようなことができたことで日常の出来事を楽しめるようになったのではないかと考えています。

「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」とセミナーのご案内

SHIEN学をさまざまなスタイルで学び、活躍していただくために、これまでの「ファシリテーション(アドバイザー・マスター)コース」に加え、**SHIEN学「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」**として「プラクティショナーコース」「シンポジウムコース」を新設しました。各コースは次のような内容です。

コース名	内 容	コース構成	開催日
ファシリテーション コース	SHIEN学の講演、ワークショップを有償で実施したい人向け。 SHIEN学アドバイザー、SHIEN学マスターの資格取得ができます。	基礎編 応用編 実践編	年6回予定 (関東・北海道・長崎)
プラクティショナ ーコース	SHIEN学を自分の生活に取り入れて実践し、生活の質を上げたい人向け。有償講演等はできませんが、SHIEN学をより深めたい方に最適なコースです。	基礎編 応用編	年6回予定 (関東・北海道)
シンポジウム コース	二人以上のコース修了者で有償・無償のSHIEN学に関わるイベント開催が可能です。イベント実施にあたってのシナリオをアカデミーよりご提供します。	基礎編 応用編 実践編	年6回予定 (関東・北海道)

●2019年度の開催日程

最新情報はSHIEN AcademyのホームページよりSHIEN学講座日程もご参照ください。

<https://www.shien-academy.jp/shien学講座-日程/>

日 程	地 域	開催講座	会 場	申 込
10月26,27日 (土,日)	北海道/札幌	天分発見ワークショップ 北海道 ①	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	受付中
11月16日(土)	北海道/札幌	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	受付中
11月17日(日)	北海道/札幌	SHIEN学1日フォーラム	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	受付中
11月30日、 12月1日 (土,日)	北陸/福井	天分発見ワークショップ 福井 ③	越前市八ッ杉森林学習センター (福井県越前市別印町19-11)	受付中
12月7日(土)	関西/滋賀	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	(サイトで詳細を更新予定です↓) https://www.shien-academy.jp/shien学講座-日程/	受付中
12月7日(土)	関西/滋賀	SHIEN学マスターコース	(サイトで詳細を更新予定です↓) https://www.shien-academy.jp/shien学講座-日程/	受付中
12月11日(水)	九州/佐賀	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	(サイトで詳細を更新予定です↓) https://www.shien-academy.jp/shien学講座-日程/	受付中
1月11,12日 (土,日)	九州/福岡	天分発見ワークショップ 福岡 ②	回帰水 Gala De Eau (福岡市中央区清川12-9-2)	受付中
1月25日(土)	東 京	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	(サイトで詳細を更新予定です↓) https://www.shien-academy.jp/shien学講座-日程/	受付中
1月26日(日)	東 京	SHIEN学1日フォーラム	(サイトで詳細を更新予定です↓) https://www.shien-academy.jp/shien学講座-日程/	受付中
2月15日(土)	九州/長崎	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	Soul Blossom (長崎県島原市弁天町1-7055-1)	受付中
3月7日(土)	北海道/札幌	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	受付中
3月8日(日)	北海道/札幌	SHIEN学1日フォーラム	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	受付中

お問い合わせ、ご参加ご希望の方は、メールでお知らせください。

一般社団法人SHIENアカデミー静岡

お問い合わせ/お申込み shien.academy.1@gmail.com

<http://www.shien-academy.jp>

<http://www.facebook.com/shiengaku/>

SHIENアカデミー活動報告

SHIEN学合宿(和歌山)

伊藤 めぐ (SHIEN学マスター)

2019年9月20-21日はSHIEN学合宿(*'▽')/シ♪

公認ファシリテーター アドバイザー/マスターが、和歌山に集まり、SHIEN学を深める2日間と

なりました(○'▽')/ 全国から集まった仲間たちとスカイプでみんなと共に ^^///

SHIEN学の展開状況と、2020年以降の活動、力を引き出し合う社会へ世界平和会議を開催^//



アルバムはこちらです～ <http://shien-wakayama.itomegu.co>

開催場所は 和歌山 天然温泉「ゆの里」 <http://www.spa-yunosato.com/>

「ゆの里」の社長も、合宿に参加していただき、貴重な水の秘密のお話をしてくれました^//
運ばれたこの地に湧き出た金水、銀水、銅水 まるで神話のようなこの奇跡の水が、SHIEN学と
重なり、身体と意識に溶け込んでいきます。

台風ど真ん中の中、私たちが手をかざすと^// この場の上だけが雨が止み…! SHIENの子
たちは 天気の子だった～ゞ(//^▽^)/♪

不思議なことがたくさん コーズパラダイムがたくさんの、まさしくSHIENの合宿でした(○'▽')/
地球75億家族のため、7世代先のこども達のために 今、私たちができる事 想いと志で進める
ことに 心から感謝しています。

SHIEN学と私 これまでとこれから

(前編)



野澤 栄一 (SHIEN学アドバイザー)
前食品会社社長
オフィス夢工房 代表

出会い

私は今年2月まで食品会社の社長を務めました。SHIEN学との出会いは、山城経営研究所の紹介で2016年1月に生産子会社でSHIEN学を導入することになります。

私が目指した会社の理想像は「One for All, All for One、一人ひとりが全体観をもって環境の変化に自立的に立ち向かい、なすべきことを考え、一人ひとりを思い遣りながら目的を達成することで、仕事の成果を出しながら働き甲斐、やり甲斐を実感して、個人の成長と会社の成長が一致できる会社」というものです。しかしながら、当時は「職人気質の強い会社で、自分の技能を磨いて自分の領域の仕事をきっちりこなすことは得意だが、部門間に亘る問題解決になると、だれも自らボールを取りに行かず、だれがやるべきかを決めることで、とてもギクシャクした組織運用になり、時間が掛かってしまう」

という状況でした。これを変えないと変化が激しく、複雑な経営環境の中で柔軟に対応し発展することができないと思いました。組織改革の成功はトップ次第と考え、自らもSHIEN学の勉強を始め、2017年4月「SHIEN学アドバイザー」を取得し、2017年11月に「天分発見ワークショップ」、2018年9月「SHIEN学マスターコース」の受講を終了しました。

この学びの中で考えたこと、気づいたことは、SHIEN学を学び実践することが、いま起こっている社会環境の大きな変化を理解し、これを前向きにとらえて、幸せに生きるための大きな力にも、企業を発展させる原動力にもなる、ということです。

このことを、社会環境の変化、個人の生き方、企業経営の3つの側面から述べ、これをもとに私がどう活動していくのかを書いてみたいと思います。

▼次ページへつづく

[▼前ページよりつづく](#)

1 社会環境の変化 ＝パラダイムシフトをどう理解するか

いま時代は、工業化社会から情報化社会を経て、5Gなど高度な情報化技術やAIが社会基盤となる、超スマート社会へと大きく変わろうとしています。

交通渋滞の解消のための方法を例にとると、

工業化社会	道路を増やすこと、交通規則を整備して規制を強化する
-------	---------------------------

情報化社会	個々の車にナビゲーションシステムを搭載しドライバー（人）が渋滞を回避する
-------	--------------------------------------

超スマート社会	個々の車の位置情報がクラウドコンピュータで処理され渋滞が発生しない運行経路で自動運転される（人が介在しない）
---------	--

といったイメージになるでしょうか。

利便性は向上しますが、多くの事象が複雑に絡み合い見えないところでデータが処理され、先行きが不透明で、雇用の減少、社会不安の増大などが懸念されています。

平成28年版科学技術白書には「我が国における601種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等が代替できる確率を試算した結果、10~20年後に、我が国の労働人口の約49%が技術的には人工知能やロボット等で代替できるようになる可能性が高く、これは欧米と同様に高い水準であるとされている」という研究報告が掲載されています。創造性、

協調性が必要な業務や非定型な業務を行う重要性が高まるともに、機械にできることは機械にまかせ、やりがいある仕事に集中できる環境が生まれるといわれています。

こうした社会環境に対応するために教育の面では2020年から小学校で「新学習指導要領」が全面実施され、「知識を活用する力を伸ばす」「小学3年から英語教育を始める」など教育改革が進んでいきます。



情報技術の進展に加え少子高齢化やグローバル化の進展、地球規模の環境問題の深刻化などで社会システム全体が大きく変わります。パラダイムとは「その時代に共通するものの見方、捉え方」ですが、これが大きく変わりつつあり、いままさにリザルトパラダイムからプロセスパラダイムへのパラダイムシフトが起きていると思います。

SHIEN学では心理的安全性が確保されて本音で意見が言え、相手に寄り添う場をつくり、気づきを立

[▼次ページへつづく](#)

▼前ページよりつづく

ち上げる、共有する、意見を交換することで二項対立を乗り越え、自分の利害や考え方方にこだわっていた時には気づけなかった問題解決方法やアイデアを立ち上げていきます。これはまさに人間にしかできない価値創造であり、新しい時代に身に着けるべき行動様式だと思います。

2 個人の生き方 ＝レールのない時代をどう生きるか

工業化社会のパラダイムはリザルトパラダイムです。その時代の変化は遅く、こうすればこうなるということがほぼ見通せました。知識や情報を活用できるのは一部の人々に限られたので、知識、情報を持った人がなすべきことや役割分担を決めて、分業で進める管理・統制というマネジメントシステムが有効に機能しました。管理・統制は人間にとって心が縛られ、窮屈で不自由な物ですが、飛躍的な生産性向上による物の豊かさがもたらせたため、貧困、不便さが解消される代償として我慢し許容されてきたのだと思います。

工業化社会では、知識を持ち情報を活用できる地位を得ることが、管理・統制システムの上流にいられ、不自由さ、窮屈さが軽減します。これは系列、下請けといった企業間の関係でも同じです。企業はよい人材を囲い込むため、終身雇用制度を築き、福利厚生制度を充実させたので、いい大学を出て、いい企業に入れば老後までの人生設計が容易に描けました。処遇の差はあれ、多くの組織でこのレールは

存在していました。したがって受験戦争を勝ち抜き大企業に就職することを誰もが目指し、また目指されました。いわばレールが敷かれていたので、このレールに乗れないと、外れることが悩みや不安の種でした。

しかしながら、情報技術やAIの発展で、現在ある多くの仕事がなくなることが予想されています。時代の変化に対応できない企業、事業は撤退を余儀なくされ、その興廃のスピードは加速していきますので、就職した会社に定年まで勤めることは稀になってくると思います。

それではどう生きたらいいのかというレールのない時代、親や先輩の背中を追えない時代を私たちはどのような考え方で生きればよいのでしょうか。

私は戦略的人生設計を提唱していますが、下記の3つが大切だと思います。

① 主体的自己を確立する（自分軸を確立する）

自分の天分を発見し社会でどういかすか M Y VISION = 志を持つ

自分軸とは、自分がどんな分野でどんな能力で社会に貢献していくかという意味で私はこのことは SHIEN学で「自分が立ち上がる」と表現していることと同義と理解しています。

② 個人事業主として成功できるビジネス力を身につけるためキャリア開発プランを持つ

ポイントは自分の天分（人に教えてもらわなくてもなぜか人より上手くできること、時間が経つのを

▼次ページへつづく

▼前ページよりつづく

忘れて取り組めること)と、時代のニーズを掛け合わせた部分に活動領域を設定し、必要な能力を磨き続けることです。

③ さまざまな人々とよりよい関係性を築く

従来重なりのないところに重なりを作りお互いの力を引きしあう関係性を築き、新しい価値を創造していく。これはSHIEN学の真髄です。多様な価値観を持つ人々と「してもらう/してあげる」豊かな関係性が幸福な人生の土台になると思います。

この3つは何歳であっても、入学、就職、子育て、出産、定年など人生のどのステージにおいても意識し、そのときどきに見直し磨き続けるといよいよ思います。

この3つができれば自分の周囲の環境が揺れ動いてもいつでも社会から必要とされる人になれ、自分で道を切り開くことができると思います。

この3つの行動様式を身に着けるのにSHIEN学はとても役立つと思います。

3 企業経営 =かかわりあう人がみな幸せになるには

自然に人口が増え需要が拡大する時代には、何のために何をするのかという戦略をたてなくとも、目の前の事業を拡大するための人、モノ、金をいかに早く手当することで成長できました。顧客ニーズはモノ不足の解消や利便性の向上がほとんどで誰にも分かりやすく、それをいかに早く大量に供給するかが企業の成功要因でした。

しかし今は違います。モノは溢れ、お客様は自分

の生活を豊かにしてくれるものを厳しく選びます。顧客ニーズは多様化、細分化し、移ろいややすく、単品、大量生産で利益をあげることは難しくなりました。企業は得意分野で独自の技術で将来の需要を創出する戦略が描けなければ成長できないどころか時代の波に押し流されて存亡の危機を迎えてしまします。変化やニーズをいち早く察知し、お客様に応えていくにはイノベーション体質の組織を形成していくことが必要で、これまでの“一人のカリスマに頼るトップダウン”だけでなく、現場の社員たちが自らオーナーシップを持ち、ネットワークを駆使しながら新しいことを次々と実現できる組織体質に変化させていくことが必要といわれています。

このためには、働く人や社会から尊敬されるミッション（社会にどういう貢献していくか）、ビジョン（ありたい姿）、バリュー（大切にする価値観）を働く人が参画して作り上げ、企業のビジョン（COMPANY VISION）と、個人のビジョン(MY VISION)との間に、重なりを作り自分ごと（OUR VISIN）として実行することが大切なではないかと思います。

その上でマネジメントシステムを管理統制にもとづくものから、SHIEN原理にもとづくものに変えていく必要があります。これはマネジメントシステムの根幹をなす考え方を180度変えることであり、コペルニクス的な転回といってもいいかもしれません。

▼次ページへつづく

▼前ページよりつづく

企業（組織）は人の集まりです。個人の意識の集積が会社の風土、企业文化になります。したがって企業が今までと違った環境に適応しようとする場合、集団の意識を大きくかえることが必要で、これが企業変革の要諦でもっとも難しい課題です。SHIEN学は「意識の科学」であり、この部分に今までにない世界を切り拓く可能性があると思います。

一般に企業の存続にかかわる大きな危機のときは、それまでの企業風土から脱却する意識改革が経営トップのリードでなされやすいのですが、「させる/させられる」になっても会社がつぶれては困るということで我慢ができます。しかしながら平時に将来の環境不適合を回避したり、さらなる成長を意図して意識改革をはかることは至難の業です。

SHIEN学は人の意識を無理やり変えるのではなく、気づいたら変わっていたという意識の変容を目指すので無理がありません。メンバーが気づきを積み重ねて自分ごとにすることに少し時間はかかりますが、自ら考えた施策を腑に落ちた状態で実行するので、障害を乗り越える力も強く、関連部署との関係性もよくなっています。そしてなによりも仕事のやりがいや職場での働き甲斐が高まります。

企業は時代にあった価値ある商品、サービスを提供し、お客様、従業員、お取引先、地球環境、地域社会、株主に貢献していく広い意味での社会貢献事業を営むものだと思います。その活動が継続し、よ

りよいものになっていくには原資としての利益が欠かせません。

利益の増大が目的ではなく、より多くの人をより幸せにする原資を増やす意味でしっかり利益を出していくという考え方にしては、経営者と働く人の間に対立はなくなり、力をひきだしあえる重なり（関係性）ができると思います。

企業がこれから激しい社会環境の変化に適応し利益をしっかりと上げて事業にかかわる人々を幸せにしていくには、目に見えない意識や感情に目をむけSHIEN原理に基づいたマネジメントシステムを構築し、転換していくことが必要であり、これが新しい時代に企業が発展する原動力になると考えます。

私のこれから

私は一社員から社長になる過程で、仕事とは何か、会社とは何か、自分を生かすのはどうしたらよいのかといったことに真剣に向かい合い、実践のなかから自分なりの事業観、人生観を築いてきました。これまで述べたことはその実践とSHIEN学との出会いの中で生まれたものです。

私はSHIEN学に出会い、いまの様々な社会問題の根源は、工業化社会（リザルトパラダイム）、情報化社会（プロセスパラダイム）、超スマート社会（コードパラダイム）にパラダイムシフトしているのに、社会システムがリザルトパラダイムのままで、問題解決を依然として管理・統制の強化で行おうとして

▼次ページへつづく

◀前ページよりつづく

いることにあると気づきました。

私の第二の人生のミッションは、新しい時代を切り拓く産業人の育成と企業経営のあり方を提示し、当事者と汗を流しながら一歩ずつ目指す姿に向けて歩んでいくことではないかと思っています。

このことを形にするため本年3月に「オフィス夢工房」という個人事務所を立ち上げました。これも「天分発見ワークショップ」の中で構想したもので、既存のコンサルタントは「こうしたらしいというソリューション」を提供しますが、私は「こうなりたいという夢（ビジョン）」を共有した上で、それを「クライアント自身がSHIENの原理を使って取り組んでいく場と場づくりの方法」を提供したいと思います。

その意味を「工房」という言葉に込めました。館岡先生は「SHIEN学」を創始し新しい時代をよりよく

く生き、世界平和を実現する道筋を示されました。

医療の分野でいえばIPS細胞による治療の道を拓いた山中教授のような研究医だと思います。私たちアドバイザーは患者を診る臨床医にあたるのではないかと思います。それぞれが直面する現実を「SHIEN学」という新しい治療法を用いてどのようによいものに変えていくのか、臨床におけるその処方箋づくりはそれぞれの分野を担う私たち自身に委ねられているのではないかと思います。

これからもSHIEN学を学び実践する皆さんと力を引き出しあいながら、世界をより良く変えていく道と一緒に愉しく歩んでいきたいと思います。

※ 後編では「オフィス夢工房」を立ち上げ、SHIEN学を通じた次世代産業人の育成や、かかわりあう人がみな幸せになる、企業経営への取り組みの構想についてうかがいます。お楽しみに！

編集後記

夏から秋、そして冬へと向かう季節に今年もたくさんの自然の恵みを味わいました。どう調理しようかと思うたび、母のことを見出していました。もう亡くなつて8年にもなるのですが、何故か思い浮かぶのは、料理をしている姿です。人生の半分は台所にいるような人で、季節の安い食材を茹でたり煮込んだりして、いつも何種類かの常備菜があるような暮らしでした。うまく出来た惣菜や珍しいものはタッパーに詰めて、近所に住むひとり暮らしの高齢者であった母の叔母や、習い事の先輩にも自転車で届けていました。こんなボランティアのような事が何十年もよく続くものだと、当時は不思議に思っていたのです。

返されて洗われたタッパーには千円札が何枚か包まれていることもありましたが、「こんな事しなくていいのに」と、呟いていた母。その頃の母の年齢に近くなつて最近分かつってきたのです。母は誰かのために、というよりも自然にやっていたことを。人は自分のためだけに料理は出来なくて分け合いたいと思うことを。SHIEN学が教えてくれるように、自他を超えて自分の天分が自然に出来ていた母のことを、きっと幸せな時間を過ごしていたのだろうと思うようになりました。

櫻井 田絵子(SHIEN学マスター)